

小中英語教育連携研修会を実施しました

11月22日（月）、山口県セミナーパークにおいて、県教育委員会と山口県中学校英語教育研究会が共催で小中英語教育連携研修会を実施しました。研修会の趣旨は、小学校「外国語活動」のねらいの周知を図るとともに、小中学校における内容の系統性、指導の継続性を理解し、そのことを通して小中学校の円滑な接続及び外国語教育の充実を図ることです。当日は小学校教員・中学校教員・指導主事等を併せて360名近くの参加者がありました。以下に当日の様子及び概要を紹介します。

【日程】

9:30	:40	10:00	11:00	:10	12:00	13:00	16:00	:15
開会 行事	所 管 説 明	事例発表	休憩 移動	グループ別 協議	昼 食 休 憩	講義・演習	閉会 行事	

【事例発表】

10:00～11:00

- ① 長門市立向陽小学校（H21外国語活動における教材の効果的な活用及び評価の在り方等に関する実践研究事業指定校）
吉田 宏美（よしだ ひろみ）教諭
伊藤 真里（いとう みさと）教諭
- ② 防府市立富海中学校（H21英語教育改善のための調査研究事業指定校、H22教育研究開発（英語教育関係指定校））
虫 明 美奈子（むしあけ みなこ）教諭



【長門市立向陽小学校の発表】

向陽小学校では、外国語活動の時間をハッピータイムと呼び、高学年とともに、中・低学年においても教育課程外の時間で実施し、一人ひとりが自分の思いをもち、生き生きと自己表現できる子どもの育成をめざしています。単元構成については、1時間目は国際的な知識理解、2・3時間目は表現に慣れる活動、4時間目は表現を使う活動にウエイトを置いて取り組んでいます。1時間の授業は、Warming up, Activity, Looking back とパターン化し進められています。その他、朝学の時間における英語での発表活動の取組、英語劇、中学校の先生による授業の実施、教員の研修の実態が紹介され、最後に、成果として、子どもたちの意欲の高まりと教員の不安感の減少が成果として報告されました。

【防府市立富海中学校の発表】

富海中学校は、小中学校の連携、小学校外国語活動から中学校英語教育への円滑な接続に焦点を当てた取組の実際について発表しました。小中連携の第1段階は、「一緒に何かをする（情報交換＋交流）」、第2段階は、「カリキュラムの連携」として、目標の一貫性、指導法の継続性、指導内容の系統性が図られることとして、授業交流、合同研修会、小・中学校教員のTTを進めたこと等、具体的な様子が発表されました。また、アンケート調査から小学校外国語活動を受けてきた生徒の特徴として、英語への親和性が高いことが紹介される一方、書くことに対する指導の工夫・充実が課題であることが報告されました。

- 小中学校教員が同一のグループで、小学校外国語活動から中学校英語科への円滑な移行のための手だてや小中連携の在り方について協議しました。

1 グループ 5～6名 60グループ



各部屋の担当者が説明を終えると、すぐに先生方が自己紹介され、司会者、記録者を引き受けるなど積極的に参加されました。また、意見も次々に出され、予定された時間があつという間に過ぎていくほど、熱心に協議が行われました。提出された記録には、「連携を行う時間の確保が難しい。」「連携の場の設定では夏休みが活用できる。」「連携を推進するコーディネーターが必要である。」「カリキュラムを小・中学校一緒に作成する。」「小学校の外国語活動が中学校で生きてくるので小学校では楽しい活動をさせて欲しい。」「文字指導については、小学校のローマ字指導においてパソコンのローマ字入力に慣れる活動を取り入れる。」といった意見がありました。

- 演題 「小学校外国語活動と中学校英語科の関連」
～指導と評価における特徴を中心として～
- 講師 文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター
教育課程調査官 平木 裕 (ひらき ひろし)



約80枚のスライドを使って、丁寧にお話しいただきました。学習指導要領の改訂の趣旨に始まり、英語教育における小・中・高等学校のつながりと小中連携教育の意義と具体、外国語活動導入の背景、中学校・高等学校外国語科の改訂のポイント及び移行期間中の指導の留意点、新しい評価の観点の説明へと進みました。話の内容が変わる時には、趣味の写真の映像が映し出され写真の解説とともに、参加者の理解の確認をされ、気分転換も図られました。また、重要なポイントについては、スライドが空欄にされており、参加者との受け答えをしながら、説明されました。



さらに、実際の指導案を通して、どのように考えるとよいのか、具体的な指摘があり、理解が一層進みました。

小学校の外国語活動は英語教育の準備段階であること、本格的な英語教育のスタートは中学校であるということ、小中連携とともに同一中学校区内の小学校同士の連携が必要であること、中学校こそ変わる必要があり、小学校で培われたコミュニケーション能力の素地を上手に生かし、発信力を高める指導を工夫する必要があること等、これからの指導において特に留意することが大切だと感じました。

【平木調査官の資料から抜粋】

小学校「外国語活動」とは

(中・高等学校等における外国語科の学習につながる)

コミュニケーション能力の素地

を養う。

中学校外国語科
今後の授業改善の方向

=キーワード=

- ・発信
- ・4領域を**統合した**言語活動 (関連付けた)
- ・4技能の**総合的な**育成 (バランスよい)

なぜ「外国語活動」か？

<新課程>

中学校 外国語科 (週4コマ相当)

小学校 共通基盤 (A校・B校・C校・D校・E校)

外国語活動(5年・6年必修)

連携! 100%